

群馬県議会 フォーラム群馬

vol.2

# 後藤かつみ

県議会だより

9月定例議会は、大澤新  
知事が、どのような方針を示す

大澤新  
知事の  
県政方針  
に多くの  
県民が  
注目



大澤新知事（右側）と1時間に及ぶ真剣討論

かに注目が集まりました。  
「県政刷新」を掲げる新  
知事の手腕に期待が集まる一  
方、「特定政党と馴れ合いの  
関係が復活しないか」「健全  
化しつつある財政が悪化に転

## 新知事と真剣討論



「県政刷新」について持論を訴える後藤かつみ

後藤かつみは、フォーラム  
群馬を代表して一般質問に立

新  
知事と1対1の  
真剣討論

じないか」といった危惧の声  
もあります。

ちました。

本物の「県政刷新」とはど  
ういうものか。後藤かつみは、  
議会と行政の関係や財政運営  
のあり方などについて持論を  
展開し、新知事と1時間に及  
ぶ真剣討論を交わしました。

本物の「県政刷新」を！



# 9月定例議会の主な動き

## 子育て

### 子ども医療費無料化拡大 入院は中3、通院は就学前

子どもの医療費を無料化する市町村に対して県が半額分を負担する制度について、来年度より「入院Ⅱ中学校卒業まで」「通院Ⅱ小学校就学前まで」に拡大することになりました。

これまでの「入院Ⅱ5歳未満」「通院Ⅱ3歳未満」からは大きく拡大するものの、大澤新知事の目玉公約であった「15歳まで医療費無料化」の完全実現への道程は遠そうです。

## 財政

### 「愛県債」の用途が変更

これまで県立病院整備に使用してきた「愛県債(※1)」について、防災無線整備などの「安心・安全対策」に用途を切り替える方針が、後藤かつみの質疑の中で示されました。

これに対し、後藤かつみは「愛県債も借金には変わらない。一層厳正な執行が必要」と指摘しました。

(※1) 愛県債

使用目的を明確にして発行する群馬県独自の県債。これまで6回に渡って計170億円を発行している。

## 産業

### 中小向け融資を見直し 大企業積極誘致へ転換

大澤知事は、小寺前知事が力を入れていた中小企業向けの制度融資を見直す意向を示しました。

一方、県外からの企業誘致については「企業誘致推進本部」を設置し、積極的に取り組むことを表明し、路線転換を鮮明にしました。

知事は「企業誘致により税収確保をはかる」と強調しますが、他県では多額の税金を誘致に注ぎ込みながら期待通りの成果が出ないケースも見られ、議会でも慎重意見が出されました。

## 市町村

### 合併推進に県が仲介役で 積極関与

大澤知事は、市町村合併推進のため、「仲介役」として積極関与していく意向を示しました。小寺前知事時代の「自主性重視」路線からの転換と言えます。

これにより、合併議論が起きながら実現に至っていない吉井町、玉村町などの町村にとっては追い風となる可能性があります。

## 教育

### 非常勤講師の常勤化 小学1・2年から段階的に

大澤知事は、目玉公約である、「さくらプラン(※2)・わかばプラン(※3)の非常勤講師の常勤化」のうち、小学校1・2年生に配置されている分(68名)から常勤化する意向を明らかにしました。

(※2) さくらプラン

小学校3年生までの少人数学級実現を目指す事業。このために496名の非常勤講師が配置されている。

(※3) わかばプラン

中学校1年生のきめ細かな生徒指導を目指す事業。このために117名の非常勤講師が配置されている。

## 補正予算

### 台風9号災害対応、 子育て支援などに追加予算

9月に県内各地を襲った台風9号の被害に対応するため、災害復旧等の経費として29億円の追加予算が計上されました。

また、不妊治療助成制度の拡充(支給回数増など)や、保育所で児童が体調不良になった場合の看護師による救急サポート事業などに追加予算が計上されました。



# 一般質問での主な討論概要

## 議員と行政との関係を透明化

後藤

宮城県や高知県などでは、議員等から県がどのような働きかけを受け、どのように対応したのかを公文書に残し、県民に公表することをルール化している。

員等からの悪質な働きかけの防止に資する制度であり、本県でも導入すべき。

知事

群馬県ではルールはないが、自主的かつ積極的に行っている。他の状況分析のうえ検討したい。

## 健全財政の堅持、巨大建設事業の見直し

後藤

知事はプライマリーバランスの黒字(※1)を堅持する決意だが、そのためには、巨額の建設費と毎年の維持管理費によって後世に莫大な負担を残すような建設計画は差し控えない。特に、高崎の倉渕ダム計画

(※2)は、前知事が凍結に踏み切った経緯からも、費用対効果という面で、ダム計画にこだわる必要はないと考える

知事

指摘を十分踏まえつつ、見直しを検討していきたい。

## PR行政の刷新

後藤

県庁舎を使った「夏祭り」など、PR先行のイベント事業が目立つが、「祭りなどは地域で行うべきもので、税金までかけて県庁でやる必要があるのか?」との指摘がある。

知事

これまでの方針を転換し、本来に必要な施策を優先的に実施すべき。同感である。県行政の効率を上げるため、必要性や効果を検証し、見直しを進めたい。

## 公共事業の入札制度改革

後藤

宮城県、和歌山、福島県などで、知事と建設業者との官製談合事件が続いている。

県土整備理事

今年度も、「条件付き一般競争入札(※3)」の拡大などの改革を行った。今後も、透明な競争の確保、発注者の恣意性の排除を目的に、入札制度改革を一層進めていきたい。

これを受け、公共事業の入札制度を透明化する努力が全国的に進められている。群馬県においても入札制度改革を一層進めるべき。

### 用語の解説

※1 プライマリバランス  
財政の健全度を表す指標。これが黒字であることは、県債(県の借金)残高を減らしながら財政運営ができていることを意味する。

※2 倉渕ダム計画  
旧倉渕村の烏川流域に、治水・利水の目的で計画されたが、平成15年12月に小寺知事が計画の凍結(事実上の中止)を決定している。

凍結理由は「二百数十億円の出費は困難」「水需要も伸びていない」「カスリン台風以降、大きな被害が発生していない」など。

※3 一般競争入札  
今までのように県が予め入札する業者を指名せず、入札情報の公告だけを行い、業者の希望参加により入札を行う制度。



## 後藤かつみの一般質問に心強い応援団

# 地元高崎から65名が議会視察

9月27日の後藤かつみ一般質問の当日、八幡地域後援会より52名、宮元町後援会より13名、合わせて65名の皆様が議会視察団として応援に駆けつけてくださりました。支援者の皆様の応援のおかげで、後藤かつみは議場から飛び交う野次にもひるむことなく堂々と一般質問を全うすることができました。

視察団は議会、県庁舎を視察され、有意義な一日を過ごしていただきました。



八幡地域後援会視察団の皆さんと 議会庁舎1階にて

皆様の声を  
お寄せください！



連日駅頭・街頭にて訴えています

田中正造翁に憧れ、「民の心」を忘れず、「信念」を貫き通す人間になりたい、と政治の道を志しました。

初当選以来、「県民に身近な県政を創る」という理想を胸に、日々訴え続けています。

皆様のご声援、ご意見を心よりお待ちしております。

県民に身近な県政を創る  
**後藤かつみ後援会**

住 所 高崎市八幡町800-24  
TEL&FAX 027-343-1393  
e-mail ccrgoto@yahoo.co.jp  
HomePage <http://www.g-kenshoku.jp/goto/>